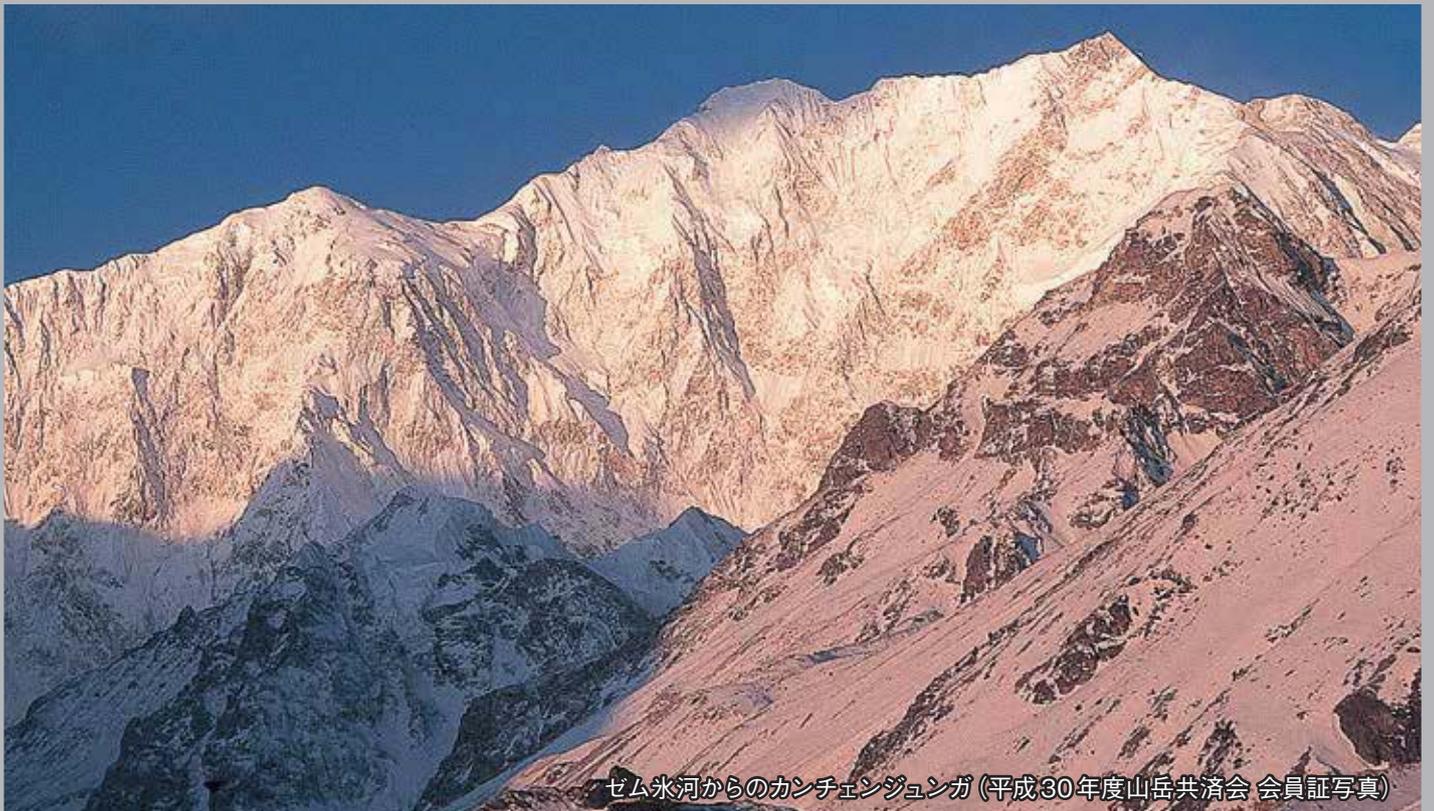


登山月報



ゼム氷河からのカンチェンジュンガ (平成30年度山岳共済会 会員証写真)



リード日本選手権2018報告	2
スポーツクライミング第2期 JMSCA オリンピック強化選手	3
スポーツクライミング IFSC クライミングWC2018 派遣対象選手について	3
平成29年度 氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会	4
山と溪谷社で第8回日本山岳遺産サミット開催	5
第113回 Mountain World	6
平成29年度ジュニア・普及情報交換会報告	7
平成29年度 第4回理事会報告	8
平成30年度 事業計画	9
平成29年度アンチ・ドーピング活動報告	13
JMSCA、寄贈図書、編集後記	13

リード日本選手権2018報告

開催地：埼玉県加須市加須市民体育館
期 日：2018年3月3日(予選) 4日(準決勝・決勝)
参 加：男子73名 女子46名

この名称で行われる最後の「リード日本選手権」(来年からは「リードジャパンカップ」)、エントリーは唯一の日本代表選考大会ということもあり殆どの有力選手が出揃いました。

予選は男子12名、女子8名が2ルートを完登、男女それぞれ26名がセミファイナルへと進出した。セミファイナルは予想通り(いや予想以上?)の男子5.14a、女子5.13cと厳しい設定となった。男子は終了点まで迫る選手がない中、トップ通過は33+の是永敬一郎で榎崎智亜を半手差でかわし今大会の好調を窺わせた。3位には前大会覇者中野稔とユース世代の本間大晴が続いた。女子は森秋彩と野口啓代が最終ホールドタッチ、地元埼玉出身の小池はな12歳が初出場ながら決勝へと駒を進めた。

先に行われた女子決勝5.13b/c、2人を残した時点で、暫定首位は終了点7手前までの伊藤ふたば。先に登場した森は慎重かつ大胆に動きをコントロール、伊藤が止めきれなかった高度を超え会場をおおいに沸かせた。残り6手のランジパートも流れるようにこなし、余裕をもって完登し大歓声に応えた。最後に登場した野口は森の完登を確信している早いペースで高度を稼ぎゴール手前に到達。最後のクロスランジ、少し急ぎすぎたかゴール取りの振られを止めきれず失敗し目前に迫っていた3連覇を手中に収めることができなかった。ただ一人の完登で昨年3位の雪辱を晴らした森の初優勝が決定した。

男子決勝は5.13d、女子同様ダイナミックムーブが入った一瞬の油断が命取りとなるルート設定となった。中盤で落下する選手が続出するなか土肥圭太が記録した30+がトップ。残る競技者は準決勝2位の榎

崎智亜と1位の是永敬一郎のみ。先に登場した榎崎は独特の速いテンポで土肥の高度を超えて32とし暫定首位で是永の結果を待つ。昨年W杯総合3位の実力を発揮し地元埼玉県の後押しを受け榎崎のコードを準決勝同様半手差で越えて悲願の国内リードチャンピオンの栄冠を手にした。これで国内全リード競技のタイトルを獲得した。



順位	男子	予選 ルート1	予選 ルート2	準決勝	決勝
1	是永敬一郎	TOP 1	TOP 1	33+ 1	32+ 1
2	榎崎 智亜	TOP 1	TOP 1	33 2	32 2
3	土肥 圭太	TOP 1	36+ 19	27+ 6	30+ 3
4	本間 大晴	TOP 1	TOP 1	29+ 3	30 4
5	中野 稔	TOP 1	TOP 1	29+ 3	29+ 5
6	波田 悠貴	TOP 1	TOP 1	25+ 7	29+ 6
7	中上 太斗	TOP 1	TOP 1	25+ 7	29+ 6
8	樋口 純裕	TOP 1	TOP 1	29 5	27+ 8
9	藤井 快	TOP 1	TOP 1	25+ 7	27+ 9

順位	女子	予選 ルート1	予選 ルート2	準決勝	決勝
1	森 秋彩	TOP 1	TOP 1	41+ 1	TOP 1
2	野口 啓代	TOP 1	TOP 1	41+ 1	33+ 2
3	伊藤ふたば	TOP 1	TOP 1	37 4	27+ 3
4	田嶋あいか	TOP 1	TOP 1	38+ 3	22 4
5	谷井 菜月	TOP 1	TOP 1	37 4	21+ 5
6	三浦絵里菜	31+ 15	TOP 1	35 7	21+ 6
7	廣重 幸紀	33+ 12	TOP 1	35.5 6	19+ 6
8	小池 はな	TOP 1	17+ 34	35 8	15+ 8



(審判長 畑中 渉)

スポーツクライミング 第2期 JMSCAオリンピック強化選手

2018年1月23日付 JMSCAオリンピック強化選手選考基準に準じて、以下のように第2期 JMSCA オリンピック強化選手を決定いたしましたのでご報告いたします。

男子6名	女子6名
榑崎 智亜	森 秋彩
藤井 快	野口 啓代
原田 海	伊藤ふたば
緒方 良行	野中 生萌
是永敬一郎	谷井 菜月
土肥 圭太	小武 芽生

参考：スポーツクライミング第2期 JMSCAオリンピック強化選手選考について

<https://www.jma-climbing.org/article/2018/01/24/JMSCA-Olympic-Strengthening-Players-2018-Application/>

【問い合わせ先】

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1

TEL:03-3481-2396 FAX:03-3481-2395

E-mail:info@jma-sangaku.or.jp

清水 裕登	L	五月女美元	B
今泉 結太	L	杉村紗恵子	B
渡部 桂太	B	番場 香月	B
杉本 怜	B	金子 桃華	B
石松 大晟	B		
村井 隆一	B		
藤脇 祐二	B		
高田 知堯	B		
堀 創	B		
渡邊 海人	B		

※1：IFSCクライミングワールドカップ2018における派遣対象種目 L：リード、B：ボルダリング、S：スピード

参考資料

- 2018年度スポーツクライミング国際競技大会派遣選手選考基準
<http://www.jma-climbing.org/article/2018/01/24/criteria-for-the-selection-of-national-team-2018/>
- 2018年IFSC枠保有選手一覧
<http://www.jma-climbing.org/article/2018/01/24/national-team-2018-by-ifsc-regulation/>
- 第2期JMSCAオリンピック強化選手
<https://www.jma-climbing.org/article/2018/01/24/JMSCA-Olympic-Strengthening-Players-2018-Application/>

スポーツクライミング IFSCクライミングWC2018派遣対象選手について

2018年度スポーツクライミング国際競技大会派遣選手選考基準(参考資料1)に基づき、2018年4月1日付スポーツクライミングにおけるIFSCクライミングワールドカップ2018派遣対象選手が以下のよう

男子選手			女子選手		
選手名	カテゴリー※1	備考	選手名	カテゴリー※1	備考
榑崎 智亜	L/B/S		野口 啓代	L/B/S	
藤井 快	L/B/S		伊藤ふたば	L/B/S	初代表
原田 海	L/B/S		野中 生萌	L/B/S	
緒方 良行	L/B/S		小武 芽生	L/B/S	
是永敬一郎	L/B/S		尾上 彩	L/B	
土肥 圭太	L/B/S	初代表	田嶋あいか	L	
波田 悠貴	L/B		三浦絵里菜	L	
西田 秀聖	L	初代表	廣重 幸紀	L	
田中 修太	L	初代表	平野 夏海	L	初代表
本間 大晴	L	初代表	栗田 湖有	L	初代表
中野 稔	L		義村 萌	L	
中上 太斗	L		中村 真緒	B	
樋口 純裕	L		加島 智子	B	
山口 龍磨	L	初代表	倉 菜々子	B	
亀山 凌平	L		菊地 咲希	B	初代表

スポーツクライミング

IFSCクライミングWC (B※1) マイリンゲン大会 (スイス) 4/13-14 IFSCクライミングWC (B・S※2) モスクワ大会 (ロシア) 4/21-22

派遣選手※1 ボルダリング、※2 スピード

男子選手	女子選手
榑崎 智亜	野口 啓代
藤井 快	伊藤ふたば
原田 海	野中 生萌
緒方 良行	小武 芽生
土肥 圭太	尾上 彩
渡部 桂太	中村 真緒
杉本 怜	倉 菜々子
石松 大晟	菊地 咲希
村井 隆一	金子 桃華
藤脇 祐二	
高田 知堯	
渡邊 海人	

鳥取県大山 平成29年度 冰雪技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会

平成30年2月17日(土)～18日(日)

鳥取県大山において冰雪技術研修会および主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会が大山自然歴史館および大山南光河原にて開催された。

今回は研修7名、A級主任検定4名、上級指導員養成講習1名、講師4名、鳥取県スタッフ2名の計18名での開催となった。

今年の大山は2月上旬日本海側では大雪が降ったが、その後、好天が続き例年より雪が少ない状況だったが、講習には問題なく、また、両日ともに晴天に恵まれ、参加者は少なめであったが、充実した講習が行われたものと思います。

以下に参加者代表の感想を掲載いたします。

(記：指導委員会 野村)

受講生 感想

「意識が変わる研修会」

日山協の研修会は指導員クラスの特権で、参加した各山岳会の有資格者が持ち帰り伝達講習をするという構図なのかと、ずっと受動的で消極的な考えていました。ある時、君も参加できるよと教えられ、それ以来、レスキューや登攀技術等、日程が許す限り参加してきました。

折しも指導的立場を意識し始めた頃で、それまでの環境に飽き足らぬ自分自身がいたのも事実ですが、確固たる自信のない技術や知識を曖昧にしたままの不安や怖さがあり、それらを払拭したいと思っていました。

実際に参加してみると、開始前には服装、装備、体調等のチェックが行われ、お互いの意志疎通の確認の



大切さや、行動を共にする仲間意識の欠如が危険に繋がるかもしれないということも、指導者は細かいところまで配慮が行き届いていなければ務まらないと改めて思いました。

講師の方々からは、長年の経験に基づいた専門的かつ啓発的な技術や知識を分かり易く説明していただいたり、実技研修の場に於いても、納得いくまで繰り返し熱心に教えてくださって、誰もが真剣に臨んでいる、期待通り「意識が変わる研修会」だと感じました。

大山とその周辺は積雪量も多く、中国地方で唯一厳しい山岳地帯の様相を見せる独立峰で、私の大好きな山の一つです。これからも研鑽を重ね、宝物のような大山を楽しむためにも、登山者の方々に安全と命を守るための指導ができたと思っています。

講師の皆さま、鳥取県山岳協会の皆さまには、厳しくて温かい研修の場を作っていただき、本当に有難うございました。心から感謝申し上げます。

(荻田純代/広島県)



大西洋に浮かぶアゾレス諸島の4島を巡る

ポルトガル最高峰登頂と
魅惑のアゾレス諸島ハイキング 10日間

発着地 東京・大阪 旅行代金 ¥482,000～¥512,000

出発日 6/7(木)・6/21(木)・7/26(木)・9/13(木)

※燃油サーチャージ(2018年1月20日現在：目安約14,000円～25,500円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

 **ALPINE ツア サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

山と溪谷社で第8回日本山岳遺産サミット開催 特別講演「日本の山とシカ問題」 高槻成紀先生

日本山岳遺産基金も8年目を迎え、恒例のサミットが2月25日(日)13:30より東京神保町の山と溪谷社セミナールームで開催され約70名が参加しました。

日本山岳遺産基金は、日本の山の自然と文化を次世代につなげるため「山岳環境保全」「次世代育成」「安全登山啓発」をテーマに活動をしています。毎年、豊かな自然と人とのかかわりを有する日本の山岳地域を「日本山岳遺産」として認定し、積極的に活動している団体に助成を行っています。(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会も少年少女登山教室のために、毎年50万円の助成をいただいております。

サミットは川崎美雪山岳遺産基金会長の挨拶で始まり、第一部は昨年の活動報告と本年度の日本山岳遺産認定地の発表、第二部で特別講演「日本の山とシカ問題」が行われました。

【第一部】 昨年の活動報告では、日本山岳・スポーツクライミング協会のジュニア登山教室の報告もありました。

そして、日本山岳遺産の認定です。例年2~3か所の認定地が今年はずぎの6か所が認定され、それぞれの認定団体の代表者から活動報告がありました。

- 1 三つ峠(山梨県) / 三つ峠ネットワーク
 - 2 岩手山(岩手県) / 岩手山地区パークボランティア連絡協議会
 - 3 入笠山(長野県) / 入笠ボランティア協会
 - 4 ニツ森(秋田県) / 秋田白神コミュニケーションセンター
 - 5 霧ヶ峰(長野県) / 霧ヶ峰草原再生協議会
 - 6 伯耆大山(鳥取県) / グラウンドワーク大山・蒜山
- いずれも、それぞれの特徴ある植物群落を維持管理するために、外来種の駆除、自然植生の保全や復元、

体験学習などの活動に積極的に取り組んでいる様子を発表していました。また、シカの被害が深刻で電気柵の設置などの対策に追われていること。構成員の高齢化や地元からの参加者が少ないことを多くの団体が問題点にあげていました。

【第二部】 特別講演 麻布大学いのちの博物館上席学芸員で長年シカの研究を続けている高槻成紀先生の「日本の山とシカ問題」をテーマにした講演がありました。

80年代はシカの被害は少なく、研究者も少なかった。1990年に急増、2000年代食害が問題になり植生調査が行われ統計がとられるようになった。

シカの特徴としては、繁殖力旺盛で二歳の雌は8割が妊娠し、死ぬまで子どもを産む。群れで行動し大食漢であり、冬眠しないので冬はなんでも食べてしまう。木の皮を剥いで食べ巨木も枯らすことがある。笹が好物でシカは森を食う。食害により植生だけでなく、土壌や水の流れ、昆虫などにも影響を及ぼしている。

シカが増えた理由として、オオカミの絶滅、ハンターの減少、温暖化などがあげられるが時期が合わない。戦後、里山の減退が主な要因と考えられる。都市に人が集中、農村の人口が減少し農山村の防衛力が衰えシカが増加したのでは? 奥山の針葉樹はシカの餌ではない、餌の豊富な山麓へそして里へと下りてきた。

シカ柵の中にだけ高山植物が咲いているのは違和感がある。植物を守るために外来種を駆除することも、でもそうしなければ絶滅する植物もある。人は自然にどの程度手を下すのか……? まずは「自然の花を見て感動することが大切!」と話を結ばれた。

(本木總子)



マルク＝アンドレ・ルクレールの遭難

池田常道

パタゴニアやカナディアン・ロッキーを舞台に近年目覚ましい活躍を示してきたマルク＝アンドレ・ルクレール(25、カナダ)が3月5日、アラスカ州南東部のジュノー氷原にあるメンデンホール岩塔群で行方不明となった。メイン・タワー(2106m)北壁の新ルートをジョージ(ライアン)・ジョンソン(34)と初登攀し、頂上からの写真をインスタグラムに投稿した直後の出来事で、下降中に二人ともクレバスに転落したものと推定されている。

捜索隊は彼らが帰路のために残したスキーなどのデポと、下降路のケーロワールでクレバスの縁から垂れ下がった2本のアンカーロープを視認したが、雪崩の危険があったため、それ以上の捜索は断念した。

ジュノー在住のジョンソンはこれまでに何度もこの岩塔群に通い、2008年にウェスト・タワー北壁、11年にメイン・タワーの南バットレス・ダイレクトをそれぞれ初登攀。13年にはウェスト・タワー南壁にバランシング・アートを拓いた。今回のメイン・タワー北壁は彼にとって残された最後の課題で、ルクレールを誘って挑んでいた。25歳にして数々の登攀を成し遂げたルクレールは格好のパートナーだった。

1992年生まれのルクレールは10代からクライミングに染まり、13歳のときカナダの年代別選手権を制覇した。ブリティッシュ・コロンビア登山クラブに所属してマウント・レクスフォードに登ったときは、中高年の先輩会員を差し置いてすべてのピッチをリードし、以後ソロ・スピード登攀への傾斜を強めて行った。

2013年、20歳のときには、カスケード山脈にあるスレッセ・マウンテン(2439m)の北東バットレスと北壁リブを1日で単独登攀してみせた。スクォーミッシュのグランド・ウォールでもレコードタイムのソロを記録している。その翌年にはウィル・スタンホーブラとアルゼンチンに行き、セロ・マリポサに18ピッチ700m(5.11 A 2)のルートを開いて初登頂を成し遂げた。帰国してからは再びスレッセ・マウンテンに行き、ナヴィゲーター・ウォールのルート3本を1日でソロした(スレッセ・トリフェクタ)。ウォディントン山群でも2本のルートを往復18時間で単独・継続

登攀している。

2014年の後半にはアイス・クライミングにも取り組み、ストーム・クリークのザ・プラム(WI 6 M 7)をジョン・ウォルシュと登った。プロフェッサー・ウォールを単独登攀した際には、ルートを間違ったこともあって、WI 4でさえ厳しく感じたという。クラシックな氷壁では、ポーラー・サーカスを2時間、ウィーピング・ウォールを1時間で継続し、車を降りてから往復6時間で片付けた。

その年の終わりから翌年にかけてはパタゴニアへ行き、コリン・ヘイリーと組んで、セロ・トーレ逆縦走(トーレからシュタンハルトへと北上)に初めて成功した。その勢いで二人は北壁に挑み、6ピッチのバリエーションを拓いて頂上に立った。ルクレールはさらにセロ・トーレを螺旋状に登るルート、コークスクリュアの単独初登攀も手中にした。

帰国してからは、クラシックなワイドクラックのパイプラインをフリーソロ、しばらくはワイドクラックにのみり込んだ。

9月からは2度目のパタゴニア訪問。トマホークからエグザセへと継続してシュタンハルトの単独第2登を果たした。冬季の期限を4日過ぎた9月24日のことだった。2016年初頭にはスコットランドを訪れ、ベン・ネヴィスのポイントファイブ・ガリーなど6ルートをソロ、ジョン・ウォルシュと組んでハッピー・ティロリアンズ(IX)をオンサイトした。同年、バフィン島でグレートセイル・ウォールの西バットレス(1100m、5.12 b C 1)を初登攀。9月にはトーレ・エガーに向かい、今度は冬の期限内に登頂、冬季単独初登頂を達成した。これで彼は、セロ・トーレ山群の主要な頂3座をすべて単独登頂したことになり、もちろん世界初の快挙となった。



2015年、セロ・トーレのコークスクリュアを単独登攀した際のルクレール(セルフポートレート)

平成29年度ジュニア・普及情報交換会報告

平成29年度ジュニア・普及情報交換会が、2月17日(土)国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された。昨年は、子供環境学会会長・小澤紀美子氏をお招きし、この情報交換会を実施したが、今年度は昨年起きた雪崩事故を踏まえ協会常務理事である合田雄治郎氏を招き講演して頂いた。

最初に伊藤克己協会副会長から挨拶を頂き、ジュニア・普及委員会は「公益」事業の中でも重要な安全登山の普及と青少年の育成を担っている。今年度、各地で展開された活動を学ぶとともに、有意義な意見交換をしていただきたいと述べた。また、スポーツクライミングが、東京オリンピック2020から追加種目になったことから、登山の分野に於いてもこれから益々の普及・育成に力を注いでいかなければならないと力強い言葉を頂いた。

1. 開会の言葉 日山協顧問 本木總子
2. 副会長挨拶 日山協副会長 伊藤克己
3. ジュニア活動 発表 (進行：仙石富英)

【ジュニア普及活動報告】

● 湯浅誠二氏 (京都府山岳連盟理事長)

「農家民宿」の一環事業として「子供たちに自然の中で遊ぶ体験をさせる」亀岡山の会が主管団体として、各農家や亀岡市各団体等の協力のもと実施。

● 飛田典男氏 ((一社)大阪府山岳連盟専務理事)

親子で楽しむ紅葉ハイキング&クライミングの体験。小中学生向け育成事業の課題にも言及された。

4. 講演

日山協常務理事 合田雄治郎氏

「野外活動における損害賠償について」

5. その他報告

● HAT-J 神崎忠男、今田明子両氏

活動報告：東日本大震災後は、被災した子供たちとのキャンプ体験、自然体験学校(沼尻ネイチャー夢カレッジ)を3回実施し、2018年は、奥多摩(山のふるさと村)で開催を予定している。また、2020年には30周年記念事業として、世界の子供を呼んで、環境登山を計画していることなどが報告された。

● (株)山と溪谷社日本山岳遺産基金 神谷浩之氏

日本山岳遺産基金は、日本の山々がもつ豊かな自然と文化を次世代に継承していくために設立された基金です。(株)山と溪谷社と(株)インプレスホールディングスを正会員として、その会費と、当基金の主旨・活動に賛同する賛助会員からの会費をもとに、次世代育成活動、山岳環境保全活動、安全登山啓発活動などを行なっている。

6. 閉会の言葉 日山協登山部長 仙石富英

報告会後の懇親会には23名のご出席をいただき、各岳連(協会)で実践されている青少年育成事業の話題で大いに盛り上がった。来年度は、情報交換会の会議室を80名の場所へ移し、より多くの参加者への呼びかけを実行したらどうかという意見も頂いた。今回の参加者の方々からとても内容の濃い交換会だったと伺い来年度の交換会につなげていく。

今年も20数団体の都道府県で、「少年少女登山教室」をはじめとする多くのスポーツクライミングや自然体験活動が各岳連(協会)で開催されたが、ゆくゆくは47都道府県が実施することを切望する。また、高体連との関連の課題にもある様にクリアして行く必要がある。

(記 中瀬和徳)

第57回全日本登山大会・京都大会 ～おこしやす京のやま～

<オープニング・シンポジウム>

○会場：「ガレリアかめおか」コンベンションホール(亀岡市余部町宝久保1-1 TEL：0771-29-2700)

○日時：平成30年6月16日(土) 受付開始12：00～13：30

○講演会：14：00～14：50「夢と冒険・・・今、リーダーに求められる力」(辰野勇氏)

○シンポジウム：15：00～16：30 テーマ『「やま」、過去・今・未来』

パネラー：辰野勇、貫田宗男、柳沢大貴、平山裕示、小林由佳の各氏

<京都一周トレイル他、登山・トレッキング>

○期日：平成30年6月17日(日)

○トレッキング①伏見稲荷～清水寺 (受付：京阪「伏見稲荷」駅斜め前公園)

②比叡山～大原 (受付：比叡山ケーブル八瀬駅)

③苔寺～清滝 (受付：苔寺正門から約300m先) ※受付時間：各コース8：30～9：30

○お問合せ：京都府山岳連盟 (TEL：090-2355-2551、<https://kyouto-gakuren.jp/>)

平成29年度第4回理事会報告

日時 平成30年3月3日(土) 10:30～15:30

場所 フォーラムエイト802会議室

出席理事 八木原暁明、亀山健太郎、高橋時夫、伊藤克己、尾形好雄、小野寺齊、水島彰治、村岡正己、小日向徹、合田雄治郎、仙石富英、町田幸男、相良忠磨、小野倫夫、吉田弘司、小宮山稔、森庄一、滝田博之、古賀英年、松本実、木村康男、工藤文昭
監事：内藤順造、中畠正喜、古屋寿隆、以上理事23名、監事3名の出席があり、会議は成立した。
同席者：ガバナンス委員：多賀啓、和田研史

1. 議事

第1号議案 平成30年度事業計画について

小野寺常務理事から資料に基づいて提案説明があった。尾形専務理事、村岡常務理事が新規事業について補足説明を行った。

●議案第1号は、賛成23、反対0で上記一部訂正を加えて可決された。

第2号議案 平成30年度収支予算について

相良理事から資料に基づいて提案説明があった。

●議案第2号は、賛成23、反対0で可決された。

第3号議案 規程の改定について

合田常務理事から最初にガバナンスの説明があり、次いで、以下の規程について提案があった。

1. 組織・管理運営規程
2. 倫理規程
3. 処分規程
4. 暴力行為等相談窓口設置規程
5. 加盟団体規程
6. アスリート委員会規程
7. 登録選手規程
8. 登録選手規程細則
9. 資格審査会規程
10. 競技審判員規程
11. 競技審判員規程に関する内規
12. 公認ルートセッター規程
13. 公認ルートセッター規程に関する内規

●議案第3号は、規程ごとに採決が諮られ、何れの規程及び内規も賛成23、反対0で一部訂正を加えて可決された。

第4号議案 JSC(日本スポーツ振興センター)からの質問と回答文書について

資料に基づいて提案説明があり、JSCの指摘に沿った対応を回答する旨が提案された。

●議案第4号は、賛成23、反対0で可決された。

第5号議案 法人役員賠償責任保険加入と保険料の支払いについて

尾形専務理事から資料に基づいて提案説明があった。役員が損害賠償責任を求められた場合の保険加入(支払限度額5億円)と保険料を法人対役員が9対1の割合で支払うことが諮られた。

●議案第5号は、賛成23、反対0で可決された。

第6号議案 賛助会員入会承認について

栃木県山岳連盟推薦の喜内敏夫氏の入会について諮られた。

●議案第6号は、賛成23、反対0で可決された。

第7号議案 平成30年度生涯スポーツ功労者候補の推薦について

小野寺常務理事から資料に基づいて提案説明があり、推薦者がいる場合は、3月中旬までに事務局へ連絡を頂き、電磁的記録による回議で諮ることが提案された。

●議案第7号は、賛成23、反対0で可決された。

2. 報告

報告1号 平成29年度事業経過報告について

小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。

報告2号 平成29年度収支見通しについて

相良理事から資料に基づいて報告があった。

報告3号 平成29年度山岳共済会事業及び収支見通しについて 尾形山岳共済会長から資料に基づいて報告があった。

報告4号 平成30年度山岳共済会事業計画及び収支予算について 尾形山岳共済会長から資料に基づいて報告があった。

3. その他

(1) 業務執行理事職務執行報告(10月～2月)

各業務執行理事から資料に基づいて報告があった。

(2) 平成29年度全国理事長会議報告

小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。

(3) その他

60周年記念事業及び募金について質疑があった。

以上、15時30分に閉会。

平成30年度事業計画

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

1. 安全登山普及事業

(1) 青少年育成事業 (ジュニア普及委員会)

ア) 高体連登山部関連

① 第62回全国高等学校登山大会

8 / 3(金)～6(月) 三重県菟野町 鈴鹿山系一帯

② 第9回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会

12/22(土)～23(日) 埼玉・加須市民体育館

イ) ジュニア登山教室

① 「少年少女登山教室」の開催 (委託実施)

② 「ジュニア普及情報交換会」開催

平成31年2 / 16(土) (予定)

国立オリンピック記念青少年総合センター

③ 「みんな集まれジュニア登山教室 in 立山 2018」

8 / 19(日)～22(水)

国立立山青少年自然の家、立山周辺

④ 「みんな集まれ！なすかし雪遊び隊 2019」

平成31年3月 国立那須甲子青少年自然の家

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 登山に関する情報・資料の収集

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

エ) 平成30年度海外登山隊奨励金の公募と選考

オ) 各種登山・山岳スポーツ大会等の後援

カ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る

(3) 安全登山の啓発事業

<ジュニア普及委員会>

ア) 安全登山指導者研修会 (国立登山研修所他共催)

① 東部地区 (埼玉・金勝山周辺) 9 / 15(土)～17(日)(月)

② 西部地区 (沖縄・名護岳周辺) 11/17(土)～19(月)

イ) 新規安全登山事業 (国立登山研修所と共催)

① 高等学校登山指導者夏山研修会

6 / 29(金)～7 / 1(日) 国立登山研修所及び周辺

② 安全登山講師研修会

6 / 9(土)～10(日) 国立登山研修所

③ 安全登山サテライトセミナー

東京会場：7 / 21(土)～22(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター

名古屋会場：11 / 3(土)～4(日) 名古屋工業大学

大阪会場：12 / 1(土)～2(日) モンベル本社 ANNEX

④ 積雪期登山基礎講習会

平成31年2 / 9(土)～11(月祝)

国立登山研修所及び周辺

ウ) 第57回全日本登山大会・京都大会の開催

6 / 16(土)～18(月)

京都：東山、北山、西山「京都一周トレイル」

エ) 「山の日」記念「ふるさとの山を登ろう」事業

<遭難対策委員会>

ア) 山岳レスキュー講習会

① 西部地区 (富山県・国立登山研修所)

8 / 31(金)～9 / 2(日)

② 東部地区 (群馬県・土合山の家)

1 / 25(金)～27(日)

イ) 研修及び研究会

① 遭難常任研修会 4月及び8月予定

② 遭難対策研修会兼委員全体会議 6 / 23(土)～24(日)

ウ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

エ) 平成30年度全国山岳遭難対策協議会の共催

(スポーツ庁他) 7 / 11(水) 東京

オ) 山岳保険加入者の事故調査

カ) 遭難事故の調査研究

・ 遭難事故に関する調査研究 (委託事業)

・ 遭難事故の科学的分析

キ) 遭難事故科学的的研究支援

・ I M S A R 研究助成支援 (継続)

<国際委員会>

ア) 国際委員全体会議兼第57回海外登山技術研究会

6 / 23(土)～24(日)

栃木県青年会館 コンセーレ (宇都宮市)

イ) 海外登山懇談会

11/15(木)

国立オリンピック記念青少年総合センター

ウ) 支援事業

ウィンター・クライマーズ・ミート (国内) の支援

平成31年2月予定

(4) 登山指導者育成事業 (指導委員会)

ア) 指導員研修会

① 氷雪技術研修会 (A級主任検定員・上級指導員養成講習会) 4 / 28(土)～29(日) 富士山

② 指導委員研修・委員全体会議

6 / 2(土)～3(日) 東京海員会館

③ 登攀技術研修会 (A級主任検定員・上級指導員養成講習会) 10月末予定 愛知県山岳連盟

④ 氷雪技術常任委員研修会

平成31年3 / 16(土)～17(日) 群馬県・谷川岳

⑤ 氷雪技術研修会 (A級主任検定員・上級指導員養成講習会)

- 成講習会) 平成31年2/16(土)~17(日) 大山
- ⑥ S C 指導員及び上級指導員養成講習会
場所未定年2回
- ⑦ S C コーチ及び上級コーチ養成会
関東地区にて年1回
- ⑧ 公認山岳指導員及び上級指導員の養成
- ⑨ 指導・遭対委合同研修会
8/18(土)~19(日) 神奈川県山岳スポーツセンター
イ) 主任検定員養成講習会
・ S C 主任検定員養成講習会 競技ブロック研修会
と同時期、(未定)
・ 山岳主任検定員養成講習会(未定)
ウ) 夏山リーダー講習会の試験実施
エ) 国立登山研修所事業への協力

2. スポーツクライミング事業

S C 部全体連絡会議の開催 4月1日(日)

(1) 競技会運営事業(競技委員会)

ア) 競技会・研修会の開催

- ① FISE WORLD SERIES Hiroshima 2018
4/6(金)~8(日) 旧広島市民球場跡地
- ② ボルダリング・ユース日本選手権倉吉2018
5/19(土)~20(日) 鳥取県倉吉体育文化会館
- ③ I F S C ボルタリングワールドカップ八王子2018
6/2(土)~6/3(日)
八王子市・エスフォルタアリーナ八王子
- ④ 第1回コンバインド ジャパンカップ
6/23(土)~24(日) 岩手県営運動公園
- ⑤ 第21回 J O C ジュニアオリンピックカップ
8/11(土)~13(月) 富山県南砺市桜ヶ池 C C
- ⑥ I F S C クライミング・アジア選手権倉吉2018
11/7(水)~11(日) 鳥取県倉吉市
- ⑦ 第14回ボルダリング・ジャパンカップ
平成31年1/26(土)~27(日)
駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場
- ⑧ 第32回 リードジャパンカップ2019
平成31年3/2(土)~3(日)(会場未定)
- ⑨ ユース日本選手権リード競技大会
平成31年3/23(土)~25(月)
千葉県印西市・松山下公園総合体育館
- (2) 国体山岳競技の主管(国体委員会)
- ア) ブロック研修会 11月~3月 全国9ブロック
イ) 国体山岳競技の主管
- ① 4/21(土)~22(日) 第73回福井国体第1回基準会
議、福井県池田町

- ② 6/1(金)~3(日) 第73回福井国体第2回基準会
議、福井県池田町
- ③ 6/2(土)~6/3(日) 第73回福井国体リハーサル
大会(第5回日本学生スポーツライミング(L/B)
対抗選手権大会) 福井県池田町
- ④ 9/9(日)組合せ抽選会 岸記念体育会館
- ⑤ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催
- ⑥ 10/5(金)~10/7(日)
第73回福井国体山岳競技、福井県池田町
- ⑦ 第73回福井国体以降の開催県への指導
- (3) 強化事業(強化委員会、S C 医科学委員会)
- ア) 日本代表選手選考・派遣
- ① 代表(S、A、B)選手の選考
イ) 代表選手の派遣
- ① I F S C クライミング W C
4月~11月 世界各地
- ② 第18回アジア競技大会
8/18(土)~9/2(日) ジャカルタ
- ③ 世界選手権
9/6(木)~16(日) インスブルック
- ④ 世界ユース選手権
8/7(火)~19(日) モスクワ
- ⑤ 第3回ユースオリンピック競技大会
10/6(土)~18(日) ブエノスアイレス
ウ) 代表選手強化合宿(海外・国内)
エ) ユース選手・指導者講習会の開催
オ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、
指導者、保護者へのスポーツ障害予防啓発(医
科学支援)
- カ) 複合種目(リード、ボルダリング、スピード)へ
の取り組み
- キ) 選手の心身面の強化に対する取り組み
ク) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討
- (4) 審判・ルートセッター事業(技術委員会)
- ア) 各種競技会・国体山岳競技への支援協力 ルー
トセッター派遣、ブロック別研修会講師派遣
- ① 審判・セッター会議の開催(2月)全国ルートセッ
ター研修会
・ 第1回: 8/14(火)~16(木)南砺市桜ヶ池 c c
・ 第2回: 12/24(月)~26(水)加須市民体育館
- ② 国際審判員養成
- (5) ドーピング防止事業(A D 委員会)
- ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など
- ① ドーピング検査実施(J A D A に委託)
② ドーピング防止講習会開催

- ③ T U E (治療目的使用に関わる除外措置) 申請の支援
- ④ A D A M S (アンチ・ドーピング管理システム) 登録選手への管理支援

3. 登山関連・競技会運営事業 (山岳スキー委員会)

- ア) 山岳スキー、スカイ/トレラン普及・振興
 - ① 第12回日本山岳スキー競技選手権大会 (②の選考大会) 4/14(土)～15(日) 小谷村柵池高原
 - ② I S M F (国際山岳スキー連盟) アジア選手権派遣支援
 - ③ 「(一財)日本トレイルランニング協会」への協力

4. 登山研究調査事業

- (1) 国際交流事業 (国際委員会)
 - ア) 国際交流
 - 訪日する外国登山代表团との交流
 - イ) 派遣他
 - ① BMC International Climbers Meet への派遣 (夏、冬)
 - ② U I A A アイスクライミング選手権派遣支援
- (2) 医・科学支援事業 (登山医科学委員会)
 - ア) 日体協公認スポーツドクター養成支援 (受講希望者の推薦及びスポーツドクター代表者協議会への出席)
 - イ) UIAA MedCom
 - ① UIAA MedCom Meeting への出席
 - ウ) 日山協が支援している医科学的諸事業
 - ① 国際認定山岳医研修会
 - ② 日本登山医学会認定山岳医研修会
 - ③ N P O 富士山測候所を活用する会
 - ④ J S M M 登山者検診ネットワーク
 - ⑤ 日本登山医学会ファーストエイド講習会
 - エ) 調査研究事業
 - ① トレラン大会の安全基準作成のための調査研究
 - ② 医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

5. 自然保護研究調査事業

- (1) 山岳環境保全事業 (自然保護委員会)
 - ア) 研修及び研究会
 - ① 第42回自然保護委員全体会議 (仮称) 11/23(金)～25(日) 埼玉県比企郡 小川げんき村
 - ② 常任委員研修会 6/23(土) 都内にて場所未定
 - ③ 第7回自然保護指導員研修会

1月予定
国立オリンピック記念青少年総合センター

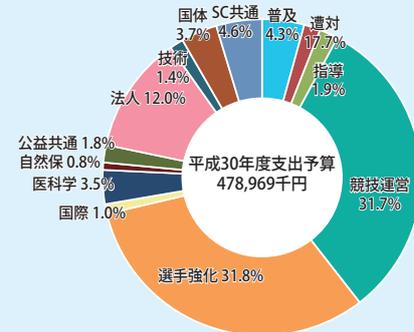
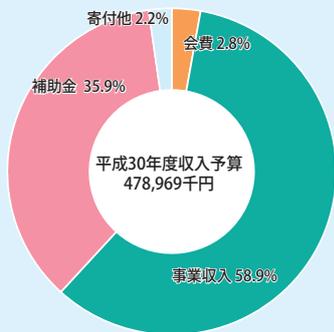
- ④ 第8回関東ブロック自然保護交流会 8/25(土)～26(日) 雲取山
- イ) 自然保護の啓発
 - ① 自然保護指導員制度の推進
 - ② 全国環境月間 (6月) の実施
 - ③ 環境省・自然公園指導員制度への協力
 - ④ 山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進
 - ⑤ 日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

6. 共益事業

- (1) 広報等 (広報委員会)
 - ア) 『登山月報』 毎月15日定期発行 第589号 (4月号) ～第600号 (3月号)
 - イ) H P の更新作成 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)
 - ① 英文コーナーの新設
- (2) 会議等 (総務委員会)
 - ア) 総会 6/10(日)
 - イ) 理事会 第1回: 5/26(土)、第2回: 6/10(日) (総会終了後)、第3回: 11/4(日)、第4回: 平成31年3/2(土)
 - ウ) 全国理事長会議 平成31年2/17(日)
 - エ) 全国参与会 6/16(木) 京都 (第57回全日大会開催時)
 - オ) 顧問・参与会 平成31年1/12(土) 東京・アルカディア市ヶ谷 (新春懇談会開催時)
 - カ) 新春懇談会 平成31年1/12(土) アルカディア市ヶ谷
 - キ) 山岳4団体懇談会 7月
 - ク) (一財) 全国山の日協議会 (随時)
 - ・第3回「山の日」記念全国大会 8/11(金) 鳥取県大山町
 - ケ) 国際会議
 - ① U I A A 総会 10/6(土)～10(水) モンゴル
 - ② U A A A 理事会 5/22(火)～25(金) カザフスタン・アルマトイ
 - ③ U A A A 総会 10/11(木)～12(金) モンゴル
 - ④ U I A A 登山部会 4/21(土)～22(日) ポルトガル・リスボン
 - ⑤ I F S C 総会 平成31年3月 東京
 - ⑥ I S M F 総会 ポーランド・ザコパネ 6/15(金)～16(土)

科目	公益会計				法人会計	合計
	登山部	S C部	公益共通	公益計		
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	13,470,000	13,470,000
正会員受取会費	0	0	0	0	2,670,000	2,670,000
加盟分担金受取会費	0	0	0	0	8,700,000	8,700,000
賛助会員受取会費(個人・団体)	0	0	0	0	2,100,000	2,100,000
事業収益	41,180,000	201,015,000	8,300,000	250,495,000	31,855,000	282,350,000
共済会委託事業収入	29,816,000	0	5,300,000	35,116,000	4,884,000	40,000,000
登録料	800,000	300,000	0	1,100,000	13,400,000	14,500,000
競技選手登録料	0	0	0	0	13,400,000	13,400,000
諸登録料	800,000	300,000	0	1,100,000	0	1,100,000
参加者負担金	9,760,000	12,700,000	0	22,460,000	1,300,000	23,760,000
講習会参加料	5,606,000	980,000	0	6,586,000	0	6,586,000
諸参加料	4,154,000	11,720,000	0	15,874,000	1,300,000	17,174,000
協賛金	500,000	162,729,000	0	163,229,000	12,271,000	175,500,000
広告料	0	0	3,000,000	3,000,000	0	3,000,000
競技会収入	0	24,570,000	0	24,570,000	0	24,570,000
選手参加料	0	11,420,000	0	11,420,000	0	11,420,000
入場料	0	13,150,000	0	13,150,000	0	13,150,000
その他事業収益	304,000	716,000	0	1,020,000	0	1,020,000
受取委託金	2,000,000	0	0	2,000,000	0	2,000,000
日本スポーツ振興センター委託金	2,000,000	0	0	2,000,000	0	2,000,000
受取補助金等	1,700,000	151,344,000	0	153,044,000	0	153,044,000
日本オリンピック委員会助成金	0	89,986,000	0	89,986,000	0	89,986,000
国民体育大会補助金	0	7,630,000	0	7,630,000	0	7,630,000
日本体育協会助成金	0	0	0	0	0	0
スポーツ振興くじ助成金	1,700,000	14,928,000	0	16,628,000	0	16,628,000
スポーツ振興基金助成金	0	38,800,000	0	38,800,000	0	38,800,000
ワールドゲームズ協会助成金	0	0	0	0	0	0
その他の補助金	0	0	0	0	0	0
受取負担金等	0	17,100,000	0	17,100,000	0	17,100,000
受取負担金	0	17,100,000	0	17,100,000	0	17,100,000
受取寄付金等	0	800,000	0	800,000	10,000,000	10,800,000
受取寄付金	0	800,000	0	800,000	10,000,000	10,800,000
雑収益	0	0	0	0	205,000	205,000
受取利息	0	0	0	0	5,000	5,000
雑収入	0	0	0	0	200,000	200,000
経常収益計	44,880,000	370,259,000	8,300,000	423,439,000	55,530,000	478,969,000
(2) 経常費用						
事業費	44,880,000	370,259,000	7,410,000	422,549,000	0	422,549,000
給料手当	5,960,000	15,400,000	160,000	21,520,000	0	21,520,000
会議費	706,000	4,021,000	30,000	4,757,000	0	4,757,000
旅費交通費	17,874,000	145,617,000	0	163,491,000	0	163,491,000
通信運搬費	332,000	2,147,000	1,350,000	3,829,000	0	3,829,000
消耗品費	690,000	4,516,000	0	5,206,000	0	5,206,000
印刷製本費	2,310,000	3,850,000	5,300,000	11,460,000	0	11,460,000
賃借・リース料	360,000	37,016,000	10,000	37,386,000	0	37,386,000
保険料	222,000	1,546,000	0	1,768,000	0	1,768,000
諸謝金	4,022,000	37,282,000	0	41,304,000	0	41,304,000
大会施設費用	190,000	35,830,000	0	36,020,000	0	36,020,000
支払負担金及び還付金	350,000	3,210,000	0	3,560,000	0	3,560,000
支払助成金及び事業交付金	200,000	2,960,000	50,000	3,210,000	0	3,210,000
委託費	8,380,000	33,604,000	450,000	42,434,000	0	42,434,000
現地サポート費用	1,250,000	24,491,000	0	25,741,000	0	25,741,000
大会記念品費	10,000	375,000	0	385,000	0	385,000
大会賞金	0	5,735,000	0	5,735,000	0	5,735,000
報奨・奨励金	1,700,000	5,000,000	0	6,700,000	0	6,700,000
雑費	324,000	7,659,000	60,000	8,043,000	0	8,043,000
管理費	0	0	890,000	890,000	55,530,000	56,420,000
役員報酬	0	0	0	0	200,000	200,000
給料手当	0	0	0	0	7,100,000	7,100,000
通勤費	0	0	0	0	1,700,000	1,700,000
退職給付費用	0	0	0	0	0	0
賞与引当金繰入	0	0	0	0	2,000,000	2,000,000
福利厚生費	0	0	0	0	2,100,000	2,100,000
会議費	0	0	0	0	1,700,000	1,700,000
旅費交通費	0	0	0	0	12,000,000	12,000,000
通信運搬費	0	0	0	0	1,320,000	1,320,000
消耗品費	0	0	0	0	900,000	900,000
印刷製本費	0	0	0	0	2,000,000	2,000,000
光熱水料費	0	0	0	0	120,000	120,000
賃借・リース料	0	0	0	0	2,900,000	2,900,000
支払会費	0	0	0	0	2,800,000	2,800,000
保険料	0	0	0	0	490,000	490,000
租税公課	0	0	0	0	6,000,000	6,000,000
支払負担金及び還付金	0	0	0	0	3,600,000	3,600,000
交際費	0	0	0	0	500,000	500,000
支払報酬	0	0	0	0	900,000	900,000
手数料	0	0	0	0	1,220,000	1,220,000
IT関連	0	0	890,000	890,000	600,000	1,490,000
60周年事業引当金繰入	0	0	0	0	5,000,000	5,000,000
雑費	0	0	0	0	380,000	380,000
経常費用計	44,880,000	370,259,000	8,300,000	423,439,000	55,530,000	478,969,000
評価損益等調整前当期経常増減額						
評価損益等計						
当期経常増減額	0	0	0	0	0	0

会費	13,470
事業収入	282,350
補助金	172,144
寄附他	10,800



普及	19,782
遭対	7,720
指導	8,810
競技運営	146,760
選手強化	147,321
国際	4,517
医科学AD	16,108
自然保	3,490
公益共通	8,300
法人	55,530
技術	6,531
国体	17,009
SC共通	21,470

平成29年度アンチ・ドーピング活動報告

平成29年度はドーピング違反や選手の不幸事が大きなニュースになり、スポーツ界のみならず社会的な注目を一層浴びた1年であった。本協会でもドーピングに関わる問題を重く見て、平成30年度より登録選手規程を改定し、日本代表として選出を希望する選手のA選手登録には、前年度中にアンチ・ドーピング研修会及び倫理研修会の受講を必須とした。研修会はアンチ・ドーピング委員会が講師を務め、平成29年12月～30年3月にかけて4回実施し、延べ185名の選手の出席があった。

ブロック別競技研修会におけるアンチ・ドーピングの取組みとしては、東北、四国、北海道の各ブロックでアンチ・ドーピング研修を実施し、68名が受講した。その他に関東、東海、近畿、九州の各ブロックでは通常研修の中で行い、148名が受講した。

競技会検査では、ユースの3大会を含めた7大会で検査を実施し、男女計22検体の検査を行った。本年度は複数のアンチ・ドーピング委員会のメンバーが競技団体代表としての経験を積み、検査対応の円滑化に向けた取組みを進めることができた。

平成30年度は8大会で検査を予定しており、さらに円滑かつ確実な検査を目指す。また、ブロック別競技研修会でのA登録選手対象の研修も予定しており、選手が

国内外の大会で自らの権利を守り、公正でスムーズな検査を受けられるよう、意識向上に取り組むとともに、幅広く指導者・選手に対するドーピング知識の普及を進めていきたい。

なお、ドーピング検査は平成29年度スポーツ振興くじ助成金の助成を受けて実施した。

スポーツくじ



第4回ボルダリング日本ユース選手権倉吉2018

期 日 平成30年5月19日(土)～20日(日)
会 場 鳥取県立倉吉体育文化会館
倉吉市山根529-2(倉吉駅徒歩5分)
日 程 19日:開会式(11:00～11:30)
予選(8:30～19:00)
20日:決勝(8:30～15:30)
表彰式・閉会式(16:00～16:30)
カテゴリー ジュニア(1999年、2000年生まれ)
ユースA(2001年、2002年生まれ)
ユースB(2003年、2004年生まれ)
ユースC(2005年、2006年生まれ)
申込み方法 <http://www.jma-climbing.org/>

JMSCA

平成29年度(30年3月)
常務理事会報告

日 時 平成30年2月22日(休)
18時～21時50分

場 所 岸記念体育会館・4階特別会議室
出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤の各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、村岡、小日向、合田、仙石、蛭田、町田の各常務理事、中畠、古屋監事、16名中15名出席

同席者 ガバナンス委員会：多賀弁護士、和田弁護士、相良財政担当理事
欠席者 平山副会長

1. 議 事

- (1)平成29年度30年2月常務理事会議事録の承認について(事前送付済)異議なく承認された。
- (2)平成30年度事業計画案について一部訂正で提案通り承認された。
- (3)平成30年度収支予算案について収入では共済会委託事業費は従前通りの4000万円、選手登録費のアップ見込み、協賛金はほぼ確定である。JSC/JOC助成金については過去の実績から計上した部分と新規事業の助成申請

を行った部分がある。60周年記念事業の募金も考えている。支出においては、4/1からの職員増によるもの、選手派遣による旅費交通費用、帯同スタッフ等による諸謝金は前年比が増えている。消費税の租税公課増も見込んでいる。常任委員の日当、交通費に関してはこれから審議する組織・管理運営規程による。

以上、提案通りの収支予算案を理事会に諮ることが承認された。

- (4)諸規程の改定について
・組織・管理運営規程
・倫理規定
・処分規程
・登録選手規程
・公認ルートセッター規程及び内規
・競技審判員規程及び内規
・資格審査規程
・アスリート委員会規程
以上、各規程の改定案が説明され、理事会に諮ることが承認された。
- (5)アスレチックトレーナー受講推薦について丹治信志氏、本堂雄大氏の受講推薦が承認された。
- (6)賛助会員推薦について栃木県山岳連盟の喜内敏夫氏を理事会に諮ることが承認された。
- (7)ユース日本選手権リード競技大会開催要項について提案通り承認された。肖像権の文言に一部訂正があった。
- (8)外務省スポーツ外交推進事業申請について

提案通り承認された。今後は小日向常務理事を中心に進めることになる。

- (9)会社役員賠償責任保険加入について2月13日見積りのプランAで付保することが承認された。
- (10)2019世界選手権、I F S C総会資料に基づき2019世界選手権、2019総会をI F S C総会でプレゼンすることが承認された。

2. 報告事項

- (1)旅行代理店入札結果報告(口頭)最終的に2社の再コンペで、H I Sに決定したことが報告された。
- (2)平成30年度日山協山岳共済会事業計画案及び収支予算案について資料に基づいて、新規事業としてアパランチ・トランシーバー貸出事業を盛り込んだため、400万円の赤字予算とすることが報告された。
- (3)中瀬理事辞任について中瀬理事辞任に伴う候補者選考について報告された。
- (4)J O C補助コカコーラ経由コカコーラからJ O C経由で20余万の補助金が報告された。
- (5)B W C実行委員会報告一部指定席を設けるとのこと。

3. 指導員・審判員 検定結果報告

- (1)山岳指導員専門科目修了認定者
小林玉喜、堀内謙(以上、大阪)
是石知昭、作田隆、山中秀正、木部容子、野原利恵、福崎悟(以上、福岡)

- (2)山岳上級指導員専門科目修了認定者
望月竜也、辻岡鈴(以上、大阪)
(3)S C 指導員専門科目修了認定者
猿棒鎮(富山)
以上11名が提案通り、異議なく承認された。

4. 専門委員会動静

2月(2月9日~2月21日)

(1)山岳スキー委員会

2月9日(金) 出席者: 4名

ア) 報告事項

①大会予定

- ・アジア選手権(中国、2/27~18)
- ・韓国大会(3/17~18)
- ・カムチャッカ欧州シリーズ(4/20~21)
- ・イラン・アジアシリーズ(5/4)

②アジア選手権派遣について

八木原会長他5名の派遣

③韓国大会の役員派遣について

イ) 協議事項

- ①第12回日本選手権について
- ②I S M F 選手登録管理について
- ③30年度山岳スキー委員会予算について
- ④世界選手権の選手選考基準について

(2)国際委員会

2月13日(火) 出席者: 11名

ア) 報告事項

- ①海外登山奨励金交付申請(下期)
- ②栃木岳連創立70周年ロブジェ東峰遠征
- ③海外登山懇談会(11/15)
- ④B M C クライマーズミート派遣
- ⑤W C M (国内) について

イ) 協議事項

- ①平成30年度総会/第57回海登研について
- ②国内外向けHP案について

(3)広報委員会

2月15日(木) 出席者: 3名

ア) 平成29年度事業報告

- ・『登山月報』定期刊行(577号~587号)
- ・特集「ふるさとの山に登ろう」(継続) 全国一巡
- ・HP: デジタル情報委員会での運営(更新・保守・管理)
- イ) 平成30年度事業計画及び収支予算
- ・『登山月報』定期刊行(589号~600号)
- ・新企画「チャレンジ・アドベンチャー」(仮称) 角幡唯介氏
- ・「60周年記念に向けて一私と日山協一」

(仮称)

- ・「スポーツクライミング」誌の刊行(季刊・年4回)
- ・J M S C A 加盟団体の行事予定の掲載(リンクできない団体には開設要望)
- ・英文HPのアップ
- ・各種講習会・研修会の動画をHPに掲載

5. その他の重要事項

2月12日~2月21日

- (1)神奈川岳連 岡本安夫会長、杉本憲昭副会長、褒章受章祝賀会 2月12日(月祝) 於: 横浜市ワークピア横浜 八木原会長
- (2)西条市長表敬来局 2月14日(水) 於: ホテルコンチネンタル 八木原会長、小野寺常務理事
- (3)I F S C ボルダリングワールドカップ実行委員会、市長表敬訪問 2月14日(水) 於: 八王子市 八木原会長、尾形専務理事、村岡常務理事、小日向常務理事
- (4)日本勤労者山岳連盟総会 2月17日(土) 於: ホテルコンチネンタル 八木原会長
- (5)ジュニア情報交換会 2月17日(土) 於: オリピック青少年センター 八木原会長、合田・仙石常務理事、中瀬理事他
- (6)全国理事長会議 2月18日(日) 於: フォーラムエイト 八木原会長他
- (7)毎日新聞社元社長 小池唯夫氏、お別れの会 2月20日(火) 於: バレスホテル東京 尾形専務理事
- (8)サンタ・ラマNMA会長歓迎昼食会 2月21日(水) 於: 中村屋 八木原会長、尾形専務理事、小野寺常務理事

寄贈図書

寄贈本	(株)山と溪谷社	「白神山地マタギ伝」著: 根深 誠
雑誌	(株)山と溪谷社	「ROCK&SNOW」第79号
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.850
会報	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.996
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.699
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》263
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.479
	日本山岳写真協會	「日本山岳写真協會ニュース」第450号
	(公財)日本体育協會	2017年2月26日号 体協フェアプレィニュース/体協スポーツニュース
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第609号
	全日本ボウリング協會	「JBC ニュース」No.556号
	日本トレーニング指導者協會	「JATI EXPRESS」Vol.63
	日本万歩クラブ	「帰れ自然へ」第579号
	秩父市教育委員会	「武甲山」第47回作品集
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」2018.3
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.230
	(公財)埼玉県体育協會	「スポーツ埼玉」Vol.279
	神奈川山岳連盟	「ときわ木」173号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.342
	(公財)日本体育協會	「Sports Japan」vol.36
	(公財)日本体育協會	2017年3月12日号 体協フェアプレィニュース/体協スポーツニュース
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.518
	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.186
長野県山岳協會	「やまなみ」No.228	
(公社)日本スポーツチャンバラ協會	「スポチャン会報」No.35	
新潟県山岳協會	「新山協ニュース」第335号	
東京野歩路会	「山嶺」Vol.95	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.700	
Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.231	
(株)ソルメディア	CLIMBERS # 007	

編集後記

先月号No588号で「山の日」制定記念一ふるさとの山に登ろう一は、ほぼ全国を一巡しました。この企画は平成27年4月号(No553)から始まり3年間リレー継続、協会加盟団体の一端を紹介することが出来たと思います。本協会が全国組織である事の実証でもあり、紹介記事の原稿を寄稿していただいた皆様に感謝申し上げます。2020年5月に本協会は創立60周年を迎えます。スポーツクライミング部は東京五輪の成果、登山部は記念事業を実施する事で創立記念に花を添えることが出来ると思います。総務部広報委員会でもこれに合わせ新企画を計画しています。2020年までは登山の伝承、2020以降は登山の継承、スポーツクライミングの特集季刊号などです。近々ご案内いたしますので自薦、他薦、あるいは依頼する機会が多いかもしれませんが協力の程宜しくお願いします。

(広報担当 水島彰治)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184
神奈川相模原市緑区小淵1545-1
☎042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

NPO法人 **北丹沢山岳センター**
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 道志村トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第589号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 平成30年4月15日
発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

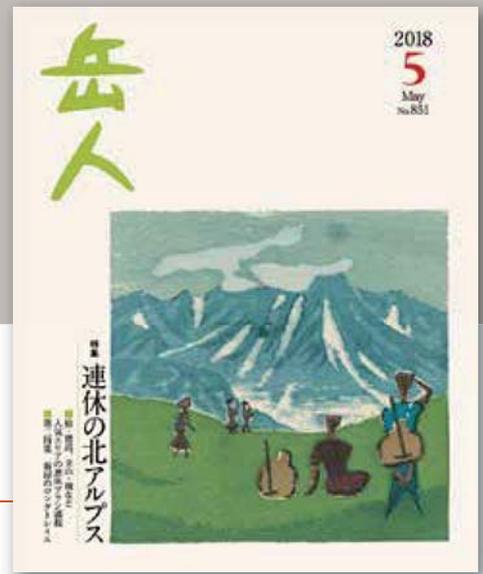
電話 03-3481-2396
FAX 03-3481-2395

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



5月号
発売中

【特集】 連休の北アルプス

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊
~~9,780円~~ (+税) → 8,965円 (+税)
1年間で815円
1冊分無料

年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!

岳人フォールディング
スプーン

フィールドで活躍する
スプーン&フォーク。
岳人オリジナル
ケース付き。
※色はお選び
いただけません



▲折りたたみ時

さらに

はじめて
お申し込みの方に

ご継続の方に



岳人ピンバッジ



オリジナルBOX

年間購読
お申し込み方法

◎ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp/>

◎全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp/>

お問い合わせ ☎ 0120-982-682 TEL 06-6538-5797
(モンベルポスト) ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

「保険会社は、紙を多く使う仕事だから木を地球に返そう」と始めた運動でした。だけど

そんな単純な話ではなかった。

インドネシア・パリヤンで知ったことは「森林は地元の人たちが、生き残るために仕方なく木を切っていたという事実」。「植木に加え、果樹も育て果実を農民の新しい収入源にする」というプロジェクトをはじめよう。人と森・生きものが共に生きる場所を取り戻そう。

「植えた木の本数」「面積」といった数値だけでは本当の意味で熱帯林は再生しません。地域の人々と手を取り合っただけで考えた時間が、明日の地球環境を再生させる。三井住友海上は、まだまだ勉強中です。

三井住友海上は、生物多様性の保全活動をすすめています。

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上



あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396

FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人日本山岳・スポーツライミング協会
携帯サイト (www.jma-sangaku.or.jp/mobile/)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)